

『斷枝片葉』ニ誘ハレテ

モノ、如キハ合抱ノ老樹ナレドモ年々其末梢ハ寒氣ニ枯死ス朝鮮ニテハやちだも、けやき、えんじゅト共ニ最モ大木トナル

●このてがしハ忠清北道丹陽郡梅浦面ニテハ山中ニ純林ヲ成ス此種ハ自生地未詳ニテ其本土ハ朝鮮ノ如ケレドモ梅浦面ノ自生様林ノ附近ニハ舊新羅ノ寺院ノ遺跡アリト云ヘバ未ダ朝鮮本來ノ自生品ト謂フヲ得ズ

○『斷枝片葉』ニ誘ハレテ

東京植物同好會會員 中尾清太郎

はんげノ意義ニ就テ

半夏ノ名稱ハ上ハ神農本草經ヨリ下ハ本草綱目ニモ出テキルノデスカラ之ヲ世人ガ聞キ

慣レヌ鴉柄杓ナドノ和名デ稱ヘルヨリハイッソ支那的ニ半夏ト呼ンダ方ガ興味ガアリハシナイカト思ヒマス先

ヅソレハ本草カラデナク曆カラ見テ「五月、半夏生」ト云フノハドウ云フ譯カト考ヘテミマスノニソレハ彼ノ

地ノ五月ノ氣候デハ「半夏生ズ」ルユエニコノ頃ヲ「半夏生」ト云ッタモノデスカラソノ植物ノ名ハ半夏デ名

ノ由來ハ即チ「半夏ニ生ズル草」(半夏トハ蓋シ夏ノ半バノ意)ダカラ半夏ト呼ンダモノト思ヒマス、ソレ故

私ハ之ヲ單ニはんげト呼ンダ方ガ其由來ニ對シテオモシロイカト存ジマス ●椅ノ訓ミ方ニ就テ 椅ヲい

いざりト訓ンデキマスガ私ハ自分ノ日本語ノ知識カラいいト云フ綴方ハ無イト思ヒマス大抵ノ植物學書ニハサ

ウナツテキマスガコレハ恐ラクいいざり(飯桐)デ古ハ此樹ノ葉ニ飯ヲ包ンダカラダト云フ『言海』ノ著者ノ

説ニ私ハ賛意ヲ表スルモノデアリマス ●何首烏ノ事 日外出版サレタ某農學士ノ「新藥栽培書」(?)ヲ

一寸見マスト「烏首何」ト出テキマシタガ此著者ハ此植物ノ名稱モ又其植物自體ノ事モヨク知ラナイデタマ引

用ノ書物ニ「烏首何」ト誤植ガシテアツタノヲ其儘採用シタノダラウト思ヒマス ●おほいぬぶぐり其他ニ

就テ 議論ヲスレバ長クモナリマスガ私ハ疾クヨリ野草改良ト云フ意見ヲ懷イテキル者デアリマスソレヲ煎ジ

詰メテ申シマストタトヘバおほいぬふぐりノヤウナモノハ栽培改良スレバ立派ナ觀賞植物ニナルノデシテ之ヲおほいぬふぐりナド、云ハズモット好イ名ニ改メルノデ(別名ニハ天人唐草、へうたんぐさナドノ惡クモナイ名モアリマスガ)トニカク良種ヲ造リ好名ヲ附シテ野草ヲ改良シタイト思ヒマスサウスレバおほいぬふぐりハ舶來ノ忘るな草ニ對抗シしびとばなハ風鳥草ニ匹敵スル價値ガ十分ニアルト信ジマス

○杜仲軒赭鞭夜話 (三)

横濱植物會會員 杜仲軒主人

久内 清 孝

川原慶賀ノ「慶賀寫真草」ニつゆくち (*Commelina communis*, L.) デ莖葉苞等ニ毛茸ヲ帶ブルモノ二種ヲ舉ゲ一ヲけつゆくち他ヲ竹葉菜トシテアル今近道所産ノモノヲ檢シテ見ルト毛ノアルモノトナキモノト兩者共ニ存在スル余リ大キナ問題デハナイガ坊間行ハル、書ニハ毛ノ有無ニ關シ何モ明記シテナイモノガ多イ様ニ思ハレル其レハ別問題トシテ此草本ヲ英國デハ栽培シテ其地下莖ヲ食用ニ供スル場合モアルト云フ事ヲ或書物デ讀ンダ事ガアルガ救荒本草啓蒙、大和本草等ニハ染料植物トシテノミ記シテアツテ本草綱目ニハ「紫莖竹葉嫩時可食」トアレドモ尙地下莖ノ用ウベキヲ示シテナイ、此「慶賀寫真草」ノ版本ヲ基トシ明治年間之レニ彩色ヲ加ヘテ大阪ノ書肆デ板行シタモノガアツテ書名ハ「草木花實寫真圖譜」トナツテ居ル

●百部

百部 (*Sclerona*

japonica, Miqu.) ハ支那原産ノ蔓草ナレドモ邦内ニ栽培サレテ居ル處ガアル其根ハ百部根トシテ藥種屋デ求メ得ラレル此根ヲ能ク煎ジタ溫湯デ頭髮ヲ洗滌スルト毛虱ノ退治ニ效ガアル近頃小學兒童間ニ往々毛虱ノ傳播ヲ見ルコトガアルカラ學校衛生ノ衝ニ當ル方ハ實驗シテ戴キタイ尤モコレハ余輩ノ智識デハナク本誌ニ度々寫眞ヲ提供スル清水藥劑師ノ說話デアルガ汪訓菴モ其著「本草備要」ニ「有小毒殺蚊蠅蠅虱一切樹木蛀虫」ト記シテ居ル

●薤菜 九月中旬頃横濱ノ支那町ヲ往來スルト八百屋ノ舗頭見馴レヌ野菜ニ逢着スルはうれんさうノ如ク束トナシテアツテ淡綠色デアリ且時期ハ異レドモ一見さつまいもノ苗ノ如ク見ユル稀ニハ其束ニひるが